



自分たちでつくった米
でもちをつく生徒ら＝
神戸市立神出中学校

創立50周年祝い 生徒が育てた 米でもちつき

西区・神出中

創立50周年を記念し、神戸市西区の市立神出中学校(吉田晶一校長)の生徒二百五十人が一日、もちつきをした。生徒たちが育ててきた米を使い、保護者ら約百人と一緒に紅白のもち

をつき上げた。二日の記念式典で配る。

今年六月、地元から借りた千五百平方メートルほどの田で初めて田植えに挑戦。十月九日に刈り入れ、PTAにも手伝ってもらい約五百四十キログラムを収穫した。

この日はうち二百キログラムを使って校庭でもちつき。きねを持った生徒らの腰つき

に、うすを囲んだ人々から笑いが絶えなかった。残りの米は福祉施設に贈る。

また、同校同窓会が卒業生の彫刻家、梶滋さんの作品「神出の希望」を寄贈。除幕式も行われた。さらに同校の吹奏楽部は、創立以来初めて全日本マーチングフェスティバルへの出場権を獲得。五十周年に花を添えた。